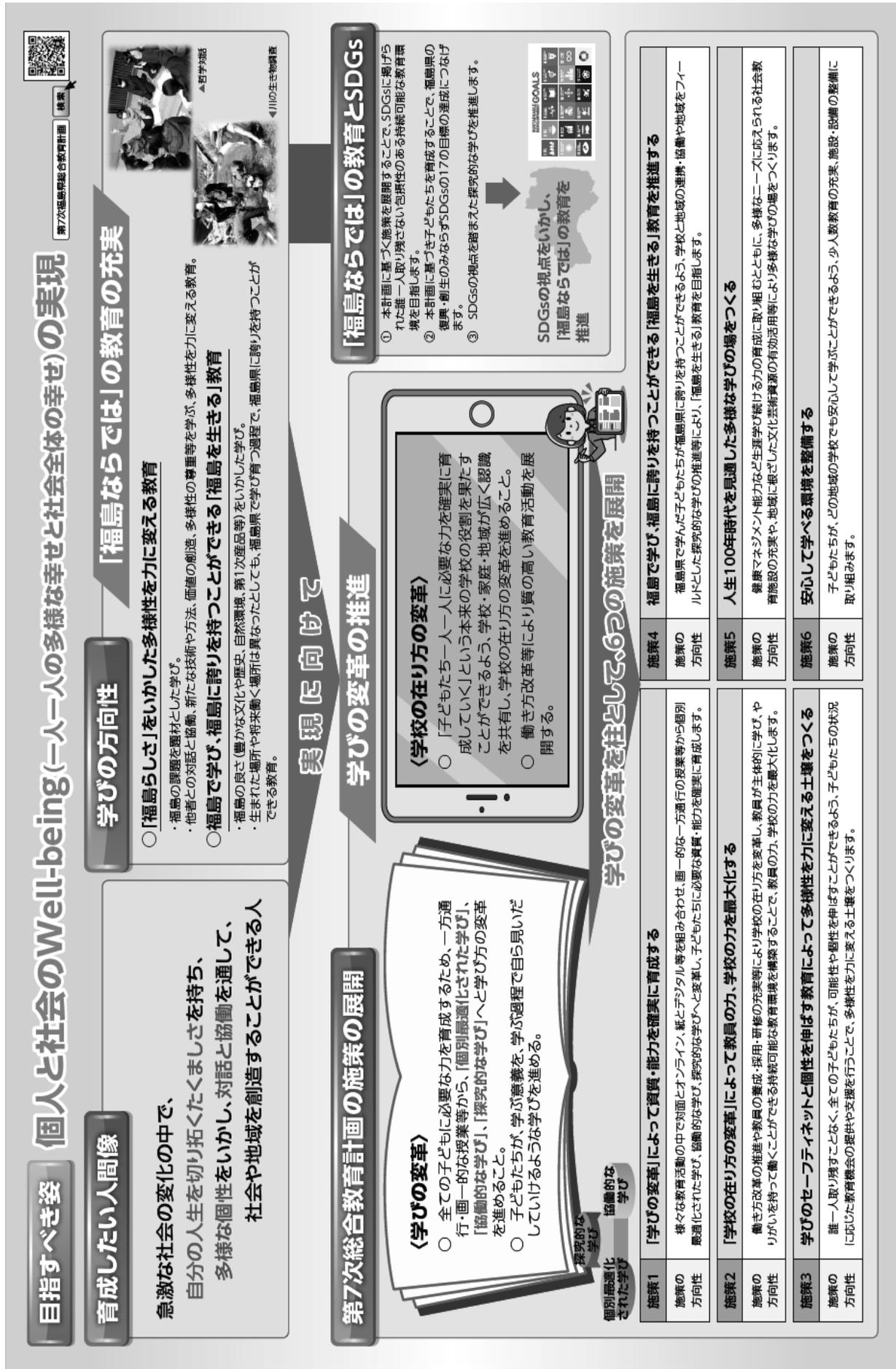


2.1 第7次福島県総合教育計画の概要



「学びの変革」実現のためのストラテジー

(令和5年度 福島県教育委員会 主要施策)

ー「学びの拡張推進プラン」を進めていくための令和5年度主要施策ー

「福島ならではの」教育の充実を通じて、急激な社会の変化の中で自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし対話と協働を通して社会や地域を創造することができる人材を育成し、個人と社会のwell-beingを実現する。<第7次福島県総合教育計画の推進>

1 「学びの変革」実現戦略

- (1) 「授業」を中心に据えた「学びの変革」の実現
エビデンスに基づく学力向上（ふくしま学力調査事業） 89,483千円
外部専門家の参画も得つつ県学力向上対策会議を開催し、各市町村のふくしま学力調査の結果を踏まえた学力向上策を推進。
学力向上支援アドバイザーの配置【新規】 10人
学力向上支援アドバイザーを新たに配置し、県内各地の小中学校を定期的に訪問することで授業改善を促進。
教科担任制加配の配置増【拡充】 43→69人
教科の専門性を高め、専門性の高い教科指導を行うために、小学校高学年における教科担任制を推進。
ふくしま高校生学びの革新支援事業【拡充】 17,714千円
短期大学の志者を対象とした合同学習会の開催及び理数教育や思考力等を育む取組等の支援で学びの革新を推進。
- (2) これからの時代に求められる新しい学びへの挑戦
コミュニケーション教育の推進 4,515千円
演劇教育や哲学対話を通じて、自己表現力や他者を理解する力を養成。
豊かな体験活動の推進（チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業） 166,658千円
県立関連学習や多様な体験活動を推進し、幅広い教習を継承するとともに、主体的に履修に寄与する子どもを養成。
情報化社会に対応した人材の育成【拡充】
高等学校「情報科」の指導体制の充実やICTを活用した「未来の教室」の実現、「自分手帳」のデジタル化、
世界で活躍する人材育成の推進（WLL、海外留学支援）【新規・拡充】 18,886千円
「アット・フット・テック・エッジ」の形成や海外大手への留学準備プログラムにより世界で活躍できる人材を養成。
福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成 86,221千円
福島国際研究教育機構の設立も見据え、理数教育、専門教育の充実等、初等中等教育段階からチームメレスに人材育成。
- (3) 非認知能力を高める幼児教育の充実
ふくしま幼児教育研修センターの設置【新規】 10,804千円
幼児教育研修センターの設置により、公私・施設類型を超えた就学前教育の充実と小学校教育との円滑な接続を実現。
幼児期からの運動習慣形成【新規】 7,503千円
プレイリーダーの育成による運動遊びの実践普及によって、幼児期からの運動習慣を形成。
- (4) 一人一人の認知特性等に合った特別支援教育の充実
地域で共に学び、共に生きる教育の推進【拡充】 36,962千円
特別支援教育アドバイザーの配置（10校）や認知特性・アセスメント等に係る研修の充実。

3 「変革」を支える基盤の整備

ICTスキルハンドブックの作成・周知【新規】 543千円
福島県版ICTスキルハンドブックの周知及びハンドブックに基づく研修の充実。

2 「学校の在り方の変革」実現戦略

- (1) 多様性を力に変える学校への変革
個別支援教育の推進【新規・拡充】 7,469千円
個別支援教育コーディネーターの県立高校への配置（9校）や、高校内に「生徒の居場所」を設置。
不登校への学習支援体制の構築・強化【新規・拡充】
不登校児童生徒支援センターを設置しオンラインを活用した不登校支援等を行うほか、ZOOM研修・1対1の設置等。
生徒参画による校則の見直し
生徒指導課等の改訂を踏まえ、学びの題材としての校則の見直しを推進。
学びのセーフティネットとしての特別支援教育の充実【新規・拡充】
長期入院児童生徒のための入院児童生徒支援員の配置や通級指導導入校の充実、視覚支援学校幼稚園の新設。
- (2) 魅力ある学校への変革
探究を軸とした魅力ある学校づくり（ふくしまを創る若者のアソビナール構案）【新規】 42,810千円
地域向けに推進員を県内7地域に配置し、若手・地域人材を育成し「が」が「化」することで、地域課題探究活動を推進。
震災と復興を未来へつむぐ語り部の育成 18,162千円
地域課題探究活動や国内外への情報発信を通じて震災からの復興を自らの言葉で語ることでできる高校生を養成。
特色化推進による魅力ある学校づくり
普通科コース制の拡充や、スクールミッション・スクールポリシーの策定推進、地域みらい留学の受入れ拡大を検討。
統合校の魅力化・特色化の推進【新規・拡充】 479,995千円
改体計画に基づく再編を進めながら、地域とのつながりを維持し地域の魅力を発信するほか、空き校舎等への対応を検討。
- (3) 働き方と勤務の在り方の変革
多忙解消アクションプランIIの推進
モニタリング校の状況分析を踏まえ多忙解消アクションプランIIの取組を進めることで業務改善を推進。
働き方と勤務の在り方の変革につながる人事配置等の見直し
初任等の人事配置見直しや単身赴任の解消等、業務に集中できる環境を整備するとともに、女性管理職の登用を促進。
中学校における休日の部活動地域移行の推進【拡充】
会津若松（運動部）に加え文化部のモデル地区を指定するとともに、指導員の配置を拡充。
各種大会・コンクール等の精選
大会等に係る実部調査を実施するとともに、大会・コンクールの精選を推進。

チーム学校を支える体制強化【拡充】

副校長の配置増（24→26名）、主幹教師の配置増（49→56名）やICT支援員など専門人材の配置等、学校を支える体制を整備。
学び続ける教師のための研修環境整備
免許更新制の発展的解消を踏まえ、研修履修に基づく受講奨励の実施と合わせて研修内容の充実と充実化を推進。
社会に開かれた戦略的な教育情報の発信【新規】
メディアアットアップフォーラムnoteによる新しい公式サイトを開設し、児童生徒や保護者、地域社会への情報発信を強化。

2.2 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークの構築

1 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワーク（以下、「福島ALネットワーク」）について

（1）事業拠点校

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

（2）県内事業連携校

福島県立福島高等学校、福島県立安積高等学校、福島県立会津高等学校、福島県立会津学鳳高等学校・中学校、福島県立磐城高等学校

（3）県外事業連携校

宮城県仙台二華中学校・高等学校、山形県立東桜学館中学校・高等学校

（4）事業協働機関

福島国際研究教育機構（F－R E I）、東北大学、早稲田大学、福島大学、認定NPO法人カタリバ双葉みらいラボ

2 管理機関主催会議及び研修会について（令和6年2月15日現在）

（1）第1回福島ALネットワーク推進会議実務担当者会（オンライン）

期日：令和5年6月19日（月）16：00～17：30

内容：令和5年度事業実施計画及び進捗状況等について

東北大学との連携について

今後の予定について

（2）第1回福島ALネットワーク推進会議（オンライン）

期日：令和5年7月20日（木）10：00～11：30

内容：令和5年度事業実施計画及び進捗状況について

東北大学との連携について

高校生国際会議の進め方について

WWL事業アンケート調査について

第1回事業拠点校及び事業連携校連絡協議会について

教員研修について

（3）第2回福島ALネットワーク推進会議実務担当者会（対面）

期日：令和5年8月22日（火）14：00～15：30
内容：カリキュラム開発の目的と教員研修の位置づけについて
事業連携校のカリキュラム開発及び教員研修の全体像について
教員研修について

(4) 第1回事業拠点校・事業連携校連絡協議会（ハイブリッド）

期日：令和5年9月4日（月）14：30～16：00
内容：令和5年度WWLコンソーシアム構築支援事業の概要について
事業拠点校の取組について
県内及び県外事業連携校の取組について
東北大学との連携について
その他の取組について

(5) 第1回運営指導委員会（オンライン）

期日：令和5年11月28日（火）15：00～16：30
内容：令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の取組について
令和5年度事業実施計画について
令和5年度事業実施状況について
協議「生徒が自分で計画を立て、その学び方を自覚するメタ認知能力をいかに獲得させるかについて」
運営指導委員による指導助言

(6) 第1回教員研修会（対面）

期日：令和5年12月5日（火）10：00～16：30
内容：事業拠点校の「総合的な探究の時間（未来創造探究）」の見学
講義／ワークショップ「資質能力を伸長させるための探究カリキュラムづくりのポイント」
各校協議及び参加校同士の意見交換

(7) 第2回運営指導委員会（オンライン）

期日：令和6年2月13日（火）16：00～17：30
内容：令和5年度事業実施状況について
令和6年度事業実施計画について
協議「文理融合・教科横断的なカリキュラムの開発について」
運営指導委員からの指導助言